

令和6年度 第3回富山県スポーツ推進審議会議事録

1 日 時 令和7年3月21日（金）15時00分～16時30分

2 会 場 県庁4階大会議室

3 出席者

- (1) 委 員 池田委員、植野委員、大橋委員、金委員、紙谷委員、北田委員、近藤委員、
竹内委員、東瀬副会長（代理：富山県スポーツ協会橋本課長）、
堀田会長、三角委員、安井委員、山木委員、山田委員
- (2) 事務局 竹内生活環境文化部長、新保スポーツ振興課長、
堺課長（富山マラソン推進担当）、野中課長（スポーツ環境等充実担当）、
スポーツ振興課職員、県教育委員会保健体育課職員
- (3) 県出席者 障害福祉課長、健康課長（代理：課長補佐）
※（ ）は代理出席者

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 竹内生活環境文化部長 挨拶
- (3) 堀田会長 挨拶
- (4) 議事

【1】報告事項

- ①令和6年度スポーツ推進施策の主な取組
- ②令和7年度スポーツ関係予算の概要
- ③「令和6年度県政世論調査」結果概要

【概要説明】新保スポーツ振興課長

【質疑応答】【◎は議長（会長）、○は委員意見及び質問要旨、◆は事務局説明】

- ◎ 事務局の説明について委員からご意見、ご質問はあるか。
- 資料に関して、2点、訂正願う。
1点目、資料2の4ページ障害者スポーツの推進について、(1)の③、知的・身体障害者団体競技チームの育成という項目。知的障害者のフットソフトボール及び～と記載があるが、知的障害者のフットソフトボールにソフトボールを追加願う。
計4競技となる。
2点目、資料2の35ページの講義で「安全管理」を担当いただいた金澤氏の所属について、構金沢病院となっているため、機構で改行し、金沢病院にしていきたい。
- ◎ 資料3の2ページ、県政世論調査の結果概要について、政策の満足度が令和3年度から下がっていることについて、どのように考えているか。何が原因か。

- ◆ ずばりこれという原因は見つけてはいないが、令和3～5年は、新型コロナウイルスの影響で、いろいろな行事を中止せざるを得ない状況から、コロナが終息したことにより、本来であれば数値的にはもっと伸びなければいけない部分がある。
今一度見直しを行い、政策の満足度というものに対し、我々が仕掛けている行事やイベントをもっと多くの方に周知し、参画できる部分の工夫が必要であるという反省をしている。
- ◎ 承知した。今後のヒントになればと思う。他にご意見はあるか。
- 世論調査の際、運動、スポーツをどのような意味合いで調査を行ったか。
例えば、畑に行って草刈りをする、体を動かすことは運動に入と思う。基本的に何かの競技や、スポーツレクリエーションをすることを運動として捉えているのか、体を動かすことを運動として捉えているのか、どいうった形で行ったのか。
- ◆ 実施率については、前回の38.8%に対して今回は49.0%となっている。
調査に際し、ウォーキングも運動の1つに入りますという注釈を入れた。(実際：軽く汗をかく程度の「通勤・通学時の歩行」や「日常生活や仕事で体を動かすこと」も含めます)
普段から歩いている方、農作業・畑仕事で30分以上体を動かした方は、運動ではないという認識で、正確に数値に反映されていない部分もある。今回、ウォーキングも運動に含むというような注釈を付けたことにより、数字が上がったと考えられるため、調査の設問に対して、さらに丸が付けやすいように、注釈を付けなければいけないと考えている。
- ◎ 他に意見はないか。
- 資料1の5ページ(2)各市町村の実施事業の回数について、高岡市のみ実施回数年12回と入っているが、他の市町村については入っていないため、今後は年何回、月や週に何回やっているのか分かるよう示していただければと思う。
- ◆ 承知した。
- ◎ 他市町村についても把握しているか。
- ◆ 市町村の取り組みについては、高岡市は年に12回、月に1回の実施である。他市町村の回数については、把握をしている。基本的に継続実施のため、回数的には多くなる。
- ◎ 高岡市だけ年12回と表記があると見え方が違ってくる。その表記の仕方について検討していただきたい。
- ◆ 事務局で精査し、回数なら回数というように共通した表記ができるように改めていきたい。
- ◎ 委員の皆様から他にご意見はあるか。後からお気付きの点があれば、ご意見いただければと思う。

【2】審議事項

「新たなスポーツプラン（答申案）」について

【概要説明】新保スポーツ振興課長

【質疑応答】【◎は議長（会長）、○は委員意見及び質問要旨、◆は事務局説明】

- ◎ 事務局から説明があったが、新しいプランに関してのご意見、修正案等あれば取り入れ変更していくと考えているため、委員の皆様それぞれのお立場から意見や感想をいただきたい。
- 前回の会議で目標の達成率を数値化したらどうかと提案したが、実施率を数値化され分かりやすくなったと思う。
- ◎ ご意見に感謝申し上げます。
- プロスポーツチームの年間観客総数の増員に関する件について、カターレ富山がJ2に昇格し、バスケットボールも非常に観客が多い状況だと感じている。この数値については、十分その競技の方との協議で打ち出した数だと思うが、野球については、活動が見えにくい部分があると感じているが、どのように考えているか。
- ◆ ご存じのように、バスケットボールがBプレミアムに参入予定である。カターレ富山もJ2に昇格し、これまでのJ3と違ったチームが、県の総合運動公園に来ており、相手チームからみればアウェーとなるが、ホームゲームとして応援するサポーターの数が間違いなく増えているのはこの2競技である。理由として、対戦するチームのサポーターが、本県へ来られるのが目新しく、また面白くゲーム観戦できるということがある。
野球のサンダーバーズに関しては、石川のミリオンスターズのみが対戦相手の日本海リーグということであり、石川と富山の根強いファンの方々が見に行かれることが多い。しかし、プロ野球の2軍3軍との試合では観客数は増えている。今後、どのような企画を行えば観客が増えるかということを、我々だけでなくチームの皆さんと考え、県民の皆さんに多く知っていただけるような機会を増やしていくことは課題だと思っている。
- ◎ ハンドボール男女2チームやアクアフェアリーズは、正確にはプロではないが、トップリーグに所属している。そのあたりを含めると、観客総数の人数はクリアできると思うがどのように考えているか。
- ◆ 目標数値については、今年度は20万人を超えていることもあり、令和11年度には、この数字が到達するであろうと考えている。また、県版スポーツコミッションでは、プロやトップチームを交え、県民の皆様方に知っていただけるようなものを、整理している最中である。いろいろな方が県内にチームがあり、見に行くことができるよう、大会の日程周知等について広く知っていただく努力は、引き続き必要だと考えている。
今すぐに、プロとトップチームを合わせて、数値目標とすることについては、現時点ではまだ検討段階で、次年度以降、また次の5ヵ年の中でどのように取り扱うか、見極めていきたいと考えている。
- ◎ 承知した。

- 9ページの3、県民のスポーツ参加の機会づくりについて意見を述べる。富山マラソンについて、関係人口という観点から考えると、富山マラソン応援隊として関わられた、たくさん子どもたちを含めた方々いる。応援する方々もスポーツを、「する・見る・支える」の「支える」または「見る」になると思うので、関係人口にその表現があってもいいのではないかなと思うがいかがか。
- ◎ 実際に参加された方だけではなく、サポートや周りで関わる人たちも含めてということか。
- ◆ 30ページ「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」、1番目に記載のある「地域を活性化させるスポーツイベント等」の中で、4行目から、スポーツイベントでは応援する観客（みる）、運営するスタッフやボランティア（ささえる）など、大勢の方々が集い、関係人口の創出も期待される。記載のとおり、委員の発言された、そういった方も含めて関係人口は増えていくということを謳っている。応援の方々については、沿道のポイントポイントでVTRを見て、毎回、沿道応援の人口等を推計で出している。
推進プラン（案）で目標として提示している参考の指標というのは、正確に数が分かるもので、参加する方々、特に海外の参加目標数を指標にしている。富山マラソンに参加される方というのは、走る方、そしてボランティアをはじめとする、協力してくださる方、さらに応援する方々、皆さん合わせた数が、当然関係人口となってくると考えている。
- ◎ 30ページに記載があるということで理解した。
- もう1点、関連して「Enjoy!スポーツとやま」について、実際に参加し、こちらも多くの方々が関わっているのではないかなと思うが、いかがか。延べ人数が記載されているが、これは体験に参加された方の人数か。たくさんの方が関わっており、とても素晴らしいイベントである。更に良いところを押し出してPRしていけば人数も増えるものだと思う。
- ◎ 事務局いかがか。
- ◆ 資料掲載の参加者は関係者やご支援、バックアップしていただいている団体の方、皆さんの数を含めたものである。
- ◎ ありがとうございます。
- 週1回以上運動している人の割合が少し向上したとはいえ、まだ全国平均よりも下回っている。大人になってから運動するのはこれまでの運動習慣がなければ忙しい生活の中で、時間を工夫して運動するということまでいかないかなと思う。やはり、運動習慣の形成ですごく大事なものは、小学生、中学生、高校生時代にどのように運動に関わってきたかがすごく重要だと思う。
今、中学校の方で、部活動の地域移行を進めているが、この地域移行が、子どもたちにとってどのように影響をおよぼしているのか。例えば地域移行したことにより、練習場所まで行けなくなり、運動部活動に入らない子たちが増えてしまうので

はないか。また、練習する機会が減ることによって競技力そのものが低下してしまうのではないか。逆に、運動そのもの、スポーツそのものを、レクリエーションとして楽しむ子どもたちが増えるかもしれない。

いろいろなメリット、デメリットがあると思う。これから地域移行が進んでいくところで、今後、地域移行が子どもたちや地域に与える影響について、メリット、デメリットを含め調査していただければと思う。

◎ 確かに、メリット、デメリットはあると思うので、調査をお願いしたい。

○ プランについてまとめていただき、感謝申しあげる。今あるものをどう生かしていくのか、またこれから先どのように、スポーツ好きの人、スポーツをする人口が増えていくのかということを考え、基本施策をまとめていただいたと感じている。

私が日々相手をしているのは子どもで、特に幼児から学童期ぐらいまでの子どもたちである。子どもの時点で、スポーツが好き、嫌い、関わる、関わりたくないということが決まっているような状態である。どこで境界があるか見ていると、幼児、学童期までの間だと感じる。9歳までが自我が芽生える前で、それまでの間に、自分や運動に対しての有能感や、「できる」という気持ちや運動を楽しむことに触れていないと、運動に対する敷居が高いように感じる人がいるようである。その結果、運動好きとそうでない二極化となっていると思う。

「誰もがスポーツに親しむ」ということについて、私は「体を動かすことを楽しむことができる」と捉えているが、皆さんのスポーツという概念について、それぞれにお尋ねしたいが、何かで競争したり、結果を出したりすることをスポーツと捉えているような気がする。しかし、本来のスポーツの語源からすると、スポーツは「遊び」が語源だということはご存じのとおり、その運動遊びあるいは体を動かすことの遊びに対して、充実感が得られるようなことを目指していかなければいけないと思う。

スポーツの概念、考え方を変えていけば、例えば、畑を耕していても「これは畑で行うジム（トレーニング）」と考え、この作業や動きもスポーツの枠組みに入る、というようにスポーツという言葉の意味をもう少し広げていただきたいということを提案したい。

もう1点、プロスポーツ、トップアスリートの育成について、競技力の向上がメインになっている。私たちがあまり意識しないで育ってきた部分にもう少し焦点を当ててはどうか。小さいときから遊ぶ環境があり、遊べる子は賢いと思う。大人になり体が動かないとしても、頭の中でいろいろなことを考えたり、工夫したりすることが、生きる力に繋がっていると思う。そのため、遊びに親しめるような環境あるいは仲間、時間を創出することがこの後大事になってくると思う。

◎ このことについては私も大事だと思っている。児童生徒体力向上推進委員会の会議に出席しているが、体力テストの点数そのものは横ばいだが、アンケートを取ると、できないけど、体育の時間が好きだという子も少しずつ増えてきている。

先生方がすごく苦勞して指導されており、「みんなで協力して何かできるのが楽しい」というようなアンケートの結果もある。昔のように、例えば逆上がりができればとか、走るのが速ければということと違ってきている。そのあたりをうまく使えば、周りと協力しながら知らないうちに体を動かすようになって、楽しめるような子どもも増えてくるのではないかという気もする。

小学校、中学校先生方が大変苦勞されているが、子どもの考えが変わってきていることから、今後も続けてもらえたらと思う。

- 「県民誰もが」のこの「誰も」は、個人、障害のある方、子ども、高齢者、女性等を指し、誰もということが頭に浮かぶと思うが、最近、スポーツの地域格差がすごく広がってきていると思う。

私はスポーツ推進委員をしているが、山間部の方では限られたスポーツしかできないと感じている。紙谷委員の意見にあった、畑仕事等の運動はできても、例えば競技スポーツ、簡単なモルックですら、教える方がいないため浸透せず、地域格差がどんどん広がっていったように感じている。

地域格差について触れた部分が見当たらないが、地域格差解消の取り組みやサポートについてどのように考えているか。

- ◆ 委員もご存じのように、地域のスポーツ推進委員の皆様方には多くの場面で指導や普及といった、人の関わりを大事にさせていただきながらお力添えをいただいている。

私自身、高岡市への派遣時に地域を回っていたが、そのときの方が今もまだその地域の世話役をされており、その下の代が全く入ってきていない状況である。また、地域の関わりや人との繋がりの中で、少しでも気軽にスポーツに取り組もうと努力していただいた方の世代交代がなかなかうまくいっていないという現状がある。実施率に出ているように、20歳以上の方が運動に触れる機会がすごく低くなっている。地域に20歳以上の方はいるが、昔のように地域のスポーツ行事を手伝う、小学校の校区で行われていた地域住民運動会はほぼ廃止されており、地域のお年寄りから子どもまで関わるイベントが減っていく時代になってきており、全ての要因であるとは思わないが、そういった年代の方をどう巻き込み、その次の時代の子どもたちにも、先ほど、紙谷委員も言ったように、子どもたちにスポーツ、その語源であるポート（港）に寄ってきて「楽しいものがあるよ」というような皆が寄ってくるようなものを意識的に仕掛けていかなければいけないという課題を感じている。具体策はこれからになるが、地域に出向くことや、現在、小学校を巻き込んだような教室事業も展開をしているので、少しずつ広がっていけばと考えているというのが現状である。

- ◎ ありがとうございます。

- 私も紙谷委員と同じ点が非常に気になっている。例えば、指標を見えても国の調査や統計調査もあるので、小学生、中学生の運動に関する状況や指標にはなっているが、やはり、小さい頃からの体験機会つまり、スポーツをしたり体を動かしたりすることへの親しみが、とても大事であると考えている。

高岡市の方で現在考えていることは、いろいろなイベント等で設けてある、体験ブースの対象年齢を、少し下げてはどうかと考えている。例えば、保護者と小さなお子さんが一緒に楽しめるような、スポーツ遊びのようなものに少し専門的な方に加わっていただき、手ほどきをしていただくというようなもの。こういったニーズが上手く当てはまるのかは検討事項だが、そういう機会を増やしたいと思っている。

また、今年の北陸地域はすごく雪が多かったが、1年の半分ぐらいは雨と雪で、屋外に出て遊ぶという機会が太平洋側と違いなかなか無い。室内で気軽に運動をして汗を流したり、体を動かしたりする機会を創出できないかと、屋内施設で体を動かせる環境を工夫できないかと模索している。例えば、学校統合であったり公共施設の改修等見直しを進めたりしていく中で、そういった環境を作ることができないか模索している。どのような策がいいのかは手探りの状況である。

もう1点、市内の保育園、幼稚園の先生方と一緒に運動遊びの習慣に触れる機会が増えればということも考えている。

また、先ほどからスポーツ、運動の定義に関する話題もあがっているが、私もこのことについて疑問に感じているところがある。例えば、健康増進という視点に立って運動・スポーツを見ると、家事をしているだけでも、消費カロリーの観点から見ると大変な運動量に相当する。私自身の体感だが、階段の上り降りの垂直方向の移動は平行移動と違い、ものすごい運動効率が高いと実感している。健康志向が高まる中でこういったことを紹介したり、広めたりしていくことで、スポーツや運動への関心というのは高まっていくのではないかとと思うので啓発も大事だと考える。

「子どもと一緒に散歩しよう」というところから始まって良いと思う。高岡市のボールパーク高岡や富山県美術館の屋上の遊具施設は大変賑わっている。このようなところから運動を始めることが大事だと思っており、スポーツ振興施策の中に噛み合わせていくことで、裾野も広がり、県民の意識も高まっていくのではないかと考えながら工夫を重ねていく必要があると思っている。

- ◎ 世代関係なくというのは、これから人口が少なくなる中で一緒にならないという
いんな行動や遊びができなくなってくると思うので、非常に大事な視点だと思う。
- 資料については大変まとまっている。先ほど議論にあった県内プロスポーツチームの観客目標について発言する。23万5000人という目標はいいものだと思う。
カターレ富山がJ3のときには、平均4000人だったのが、今回J2に昇格したことにより約6700人と、今2試合が終わった段階だが、増えている。
確かに、J2に上がった効果があるのでこれを維持していかなければならない。
次のプランである令和11年以降、例えばJ3に降格し観客が減るようなことにはならないよう、31ページに書かれているように、子どもたちに無料で観戦できる取組みや地域貢献にも積極的に取り組んでおり、最後の地元チームを応援する機運醸成に努める必要がありますという部分についても、各チームに委ねるのではなく、行政としても何かできることがあれば頑張ってください、選手は応援していただければ、頑張ってJ2を維持し、J1へ昇格の可能性はゼロではないと思うため、書かれているとおり、何か具体的に取り組める方法を模索していく必要があると思う。
- ◎ 官民一体となったサポートを進めていただけたらと思う。
- 東瀬専務からは、第2回審議会で、16ページにある部活動地域移行について、JISSやNTC、ハイパフォーマンススポーツセンターとの連携といった部分について意見したところ、プランの方にしっかりと反映されており、良いものになっていると申ししていた。
スポーツ協会についてはプランを拝見し、プランに則り事業が進められているということを、再確認させていただいた。
スポーツ協会としてはこのプランに記載されている事業について、例えば普及振興課の方では、Enjoy!スポーツとやま、富山県スポーツフェスタ、公認スポーツ指導者研修会、競技力向上対策課の方では、マルチサポート事業と競技団体の支援、未来のアスリート発掘事業という競技力強化の部分で様々な事業に関わっているところである。プランに挙げられている事業を次年度以降進められるということでプランの実現、目標に近けるよう県の方と連携をとりながら進めていきたいと考えている。
- ◎ ありがとうございます。
- 保護者の立場から発言する。
基本施策2の運動好きな子供の育成と地域と連携した学校体育・スポーツの充実

について、16ページにある中学校の部活動の加入率が64.6%と非常に少ないことに驚いている。一概には言えないが、部活動には入っていないが、スポーツクラブ等で活動をしている方などがいて、部活動の地域移行はなかなか進んでいないと感じている。うまく移行が進んでいないため、令和6年度の加入率はこのまま下がっていくと思われる。

富山県全体で取り組んでいるが、全市町村が統一でなくても「〇〇市はこのようなスポーツをやっているから来ませんか」としたり、なるべく子供たちが部活動に参加したりできるよう部活動の地域移行についてお願いしたい。

また、小学校の保護者の方は地域移行について理解しておられる方が少なく、PTAが教えていけばいいと思うが、PTAも関わっている人もそうでない人もおられるため教え方が難しいと感じている。小学生の保護者の方にも地域移行はこういうものだということを周知してもらえようをお願いしたい。

◎ 大事な問題であると思う。

○ パラスポーツに関することについて、大変期待している。11ページにパラスポーツの推進とあり、その下の黒丸に、市町村や関係機関、団体と連携し、障害のある人もない人もという記載がある。共生社会の実現に向けてというのが念頭にあるので、今後どういうことをやっていくのか、具体的にはこれからだと思うが、障害のある人と言っても、様々である。車を運転できる方は、自分で運転して会場まで行くが、運転できない方は、スポーツ会場に行くことも難しく、スポーツを断念する方もおられる。また、障害の重いお子さんをお持ちの親御さんが協力して、現地まで連れて行かないとできないという問題もある。

支援学校に通っている間は、学校の授業や放課後等デイサービスで手厚くスポーツができる環境になっているが、卒業後、スポーツを継続してできるような仕組みができるように、今後障害のある人もない人も含めて、一緒にスポーツを楽しんでいけるよう私も頑張りたいと思う。県の方でもそういう視点で、考えていただきたいと思っている。

また32ページの、県版スポーツコミッションについても同じように、市町村との連携は必要だと思う。外に出られず、近場でスポーツができるというのは大事であることから、例えば他市から富山市まで出てくるということではなく、近場でもできるような手軽なスポーツが普及していくと良いと思っている。

◎ ありがとうございます。

これからの要望といえるような形かと思う。

○ 前回の審議会でも発言したが、広報活動が必要とされていると感じる。数値を上げるにしても、分かりやすく県民の皆さんが、手元にいろいろな情報を持つことができるというのが、一番大事なことだと思う。パブリックコメントも読んだが、情報について書いている方もおられ、そこを整備すればいろいろなイベントの参加率もすぐ伸びると思う。

富山スポーツ情報ネットワークを拝見したが、自分が期待していたのは様々なスポーツの一覧があり、例えば、テニスを選択すれば県のテニス協会、レディーステニス協会等、関連団体にアクセスでき、そちらの各イベント等を見ることができるようなものを期待していたが、そういうものではなく使い勝手が悪いと感じた。

理想を伝えと、LINEの公式アカウントを作成いただきたい。富山県LINEの公式アカウントはあるが、実際に富山県の公式アカウントを触ってみて、スポーツに辿りつこうと思ったが、辿り着くことができなかった。富山マラソン等のイ

ベントのときは大々的にお知らせをされると思うが、これだけの立派なことをやろうとしているのに、悲しい感じがしたので、スポーツ専用のLINEの公式アカウントがあればいいと思う。そこで、自分たちが欲しいスポーツを選んでおけば、イベント等の情報が手元に入ってくるようなものをぜひ構築していただきたい。

システム作成に係る予算はなかったもので、皆さんが欲しい情報が自動的に送られてくるというシステムを作っていたらと思う。

- ◎ 参加人数の大きさに関わらず、全て平等に情報が発信でき、すぐ分かるようになればよいという要望である。大事なことである。

- 国民体育大会に帯同したことがきっかけで富山県のスポーツに関わるようになった。富山県の選手は感動するぐらい頑張っているがなかなか勝つことができない。勝つことが全てではないが、勝つと報道され、注目も浴び、「今度観に行こうかな」「応援しようかな」という人も増えてくる。「頑張れ」という言葉は、選手に向かって言っているが、やまびのように自分に返ってきて元気が出るものだと考えている。富山県の選手が、県外に流出するというような問題もあるが、一言で言うなら富山を愛する気持ちをもっと醸成したいというのが私の思いである。

私は福井県の出身で、縁あって富山県に来て、富山が大好きになって富山に住んでいるが、皆さんが言っているように、富山県を愛し、富山県のスポーツ選手を愛し、応援するというのもスポーツではないかと思っている。

では、医者という立場から自分に何ができるかと考えている。骨折の治療のため通院していた中学生が、明日から野球の全国大会に出場するので、試合に出ても良いかと聞かれたときに、「行ってこられ」と、背中を押すことが自分の仕事だと思っている。最後はそれぐらいしかできないと思っている。

また、大会のサポートとして今度の全国中学生ハンドボール大会で救護に入るが、そういったサポートはできるが、こちらから「僕の力を使ってよ」というふうに出て行くことは難しいので、前回も申したが、どんどん活用していただきたいと思っている。

もう1点、月に1回、県西部体育センターでスポーツ障害相談を行っている。予約制で定員を6人とし相談を受けているが、アスリートはほとんど相談に来られない。一般のスポーツを楽しんでいる方が、スポーツをする上で病院に行くほどではないが膝や肩が痛いという方が相談に来られる。そういった相談に乗ってあげることも1つのサポート、自分たちにできることだと思っている。

プランに関しては特に異論はない。今後ともよろしく願いたい。

- ◎ 富山愛である。皆様からご意見をお聞きしたが、他にもあるか。

- 皆さんの意見を聞き、県のスポーツ推進プランは非常に本県の現状、将来構想も含め非常に良いものになっていると思う。

委員の皆さんはスポーツ推進派だと思うが、富山県は教育県とも言われ、逆にスポーツ否定派の人もたくさんいる。

先ほど小さい頃から運動に親しむことが重要であるという意見について、理解はできる。しかし、例えば、幼稚園や保育園、小学校低学年では、ちょっとした擦り傷で学校を批判される方がおられる。そういう否定派の方々にスポーツに親しむことをいかに浸透させていくかということが非常に大切なものであるような気がする。

我々のようにスポーツを推進する者としては、スポーツの素晴らしさを、小さい子どもから高齢者の皆さんまで、行き届かせるということが理想だと思うが、機会を捉えて様々な立場の団体等も含めて考えることも必要になってくると思う。

もう1点、先ほど最初に報告事項で資料3の来年度のスポーツ関係予算の概要に

ついて話があった。その中の全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成について、現在、高校野球、高校サッカー、駅伝競技の強化をされているが、来年度、新たな競技種目を選定するという説明があったが、どの種目を選ばれるか考えておられるのであればお聞きしたい。

◎ 事務局、いかがか。

◆ 現在、どう整理するか検討中である。ベースとして考えているのは、今までの3競技以外に、本県にトップチームがあり、リーグを展開している競技で、ジュニアの選手が育つ、または、県外から本県にチームが来て交流や招聘事業ができるよう落とし込めないかと探っているが「この競技」というのはまだ決めていない。

おおよそ3ヵ年でトップチームのあるようなジュニアのチームや、今後世界へ飛び立っていくような競技種目の中から選定することを考えており、3年間周期くらいで新たな競技種目を支援するようなイメージと思っていただければと思う。

◎ 承知した。

この時点ではまだはっきりとは決まっていないということ。

(5) 閉 会

竹内生活環境文化部部长 挨拶